

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2372001756
法人名	医療法人尽誠会
事業所名	グループホーム尽誠苑
所在地	豊橋市大脇町大脇ノ谷74番54 (電 話) 0532-65-2727
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成19年6月21日

【情報提供票より】（平成19年5月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成16年 6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤27人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

（2）建物概要

建物構造	RC 造り	
	3 階建ての	～ 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	75,600 円	その他の経費(月額)	42,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,600 円		

（4）利用者の概要（5月31日現在）

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	3名	要介護2	11名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 83 歳	最低 65 歳	最高 94 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	木戸病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

春先には鶯のさえずりも聞かれる、郊外の静かな場所にあり、老人保健施設や地域包括支援センター、訪問看護ステーションなどが併設しており、グループホームのバックアップ体制が整っている。共有空間は広く畳コーナーには冬季は炬燵を使用することで家庭的な雰囲気を感ずる工夫をしている。町内会や老人会行事に積極的に参加するなど地域との関わりを重視している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 改善の取り組みとして、ホームから家族へ向けた便りの定期発行を行い、入居者一人ひとりの近況を温かみのある手書きで届けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 調理は主に併設の老人保健施設で行われているので、改善点としてホーム内での調理を実施できるように月毎に計画を立て取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は地域を代表する人たちで構成されており、多角的な見識から討議されている。その内容を活かした質の高いケアに向けた取り組みが実践されている。討議内容はホーム内で調理することや、玄関に鍵をかけない工夫などについてであり、意見を活かして取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 年2回、顧客満足度調査を実施し、家族からの意見や不安を聞きホームの運営に反映させることで不安や苦情の解消に向けた対応がされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会行事の廃品回収や地域のまつりへの参加やホームでのまつりなどのイベントに地域住民の参加を呼び掛けることで連携を密にするように努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスを念頭に管理者を中心に全職員で話し合っってホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月第4月曜日に開催するミーティングで職員に周知し、職員は熟知して日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月の廃品回収や秋には地元のまつりに積極的に参加しており、主催者側の好意でグループホーム入居者のための席も設けられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、前回評価結果から、昼食づくりをホームで調理するなど改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や老人会等、地域の代表者、入居者、家族、職員で、奇数月の第3金曜日に開催し、活発な意見交換がされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内の包括支援センターは連携を密にしているが、グループホームとしては市町村との連携は十分とはいえない。	○	現状は運営推進会議に市町村の参加がないので、市町村にも参加を要請し、より連携を密にされることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭収支、職員の異動、ホームたより等、毎月定期的に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満、苦情をホーム担当者のみでなく、外部へも表せることを説明文書に明記し、併せて、顧客満足度調査を年2回実施し、その結果をホームの運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設4年目で職員の異動は10回ほどで入居者や家族から苦情の申し出はない。3ユニットでの職員の異動や離職による、混乱を防ぐために各ユニット間で協力援助するなどの工夫がされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年8回、外部研修は年1回が実施されており、職員のレベルに合わせた研修が計画的に実施されている。	○	全てではないが、職員が休日を利用して研修を受講している場合があるので、研修の体制を整備し、さらなる機会の確保への取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流により勉強会やサービスの質の向上の必要性は認識しているが、現状は実施されていない。	○	同業者との相互訪問を積極的に実施され、その内容を全ての職員で共有することが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とも相談して、一週間の試験的入居を実施するなど、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事、食事準備、懐メロのカラオケなどでは、入居者に教えてもらいながら一緒に過ごす時間を大切にして、喜怒哀楽に共感する支援が実践されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日常の関わりの中から、入居者がテレビ番組を選ぶなど思いや希望を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、職員間で話し合い、その意見を反映した介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の期間は6ヶ月と定めているが、3ヶ月毎に見直しをしている。入居者の状態に変化が見られた場合はその都度家族や関係者と話し合いをして見直し、現状に即した介護計画書を作成し、家族に説明して同意のサインを得ている。	○	介護計画書には実施期間の明示がないので、家族への説明時に家族の安心を得るためにも実施期間の明示が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の老人保健施設ではデイサービスやショートステイを実施しているが、グループホームとしては今後どのようにして多機能性を活かすべきか検討しているところで、具体的な内容にまではいたっていない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に現在も家族の支援により受診している入居者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族の要望により終末期ケアは可能であり、家族や医師、看護師と話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の思いを尊重して、プライバシーを損ねるような言動はしないよう取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の際、全介助を要す入居者に箸を持ってもらうなど、職員の都合を優先するのではなく、その人の希望に沿った支援が実践されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備や片づけはしているが、職員は職員食堂で食べているため、入居者と一緒に楽しみながら食べていない現状である。	○	毎食担当職員が検食をすることで、味付けや硬さなどを確認して入居者に提供しているが、全ての職員が入居者と同じ食事を一緒に食べながら会話などで楽しく食事をされることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則午後であるが、希望があれば朝の入浴や気の合った人同士の入浴も支援している。入浴を好まない人には職員が一緒に入るなどの支援も実践されている。介助は同姓で行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯物たたみ、併設老人保健敷地内へのゴミ捨て、その日のメニュー書き、各ユニットへの新聞配布など、その人の出来ることで自発的に行っている。職員は感謝の意を表現するようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課としている散歩の外にも、買い物や地域のまつり、外食など外出機会は頻繁である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族とも相談し、安全面を重視して玄関は施錠されているが、入居者の外出の希望に添えることを第一と考え、外出したい入居者には引き止めるのではなく、職員が一緒に出かけるように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年3月、9月の2回消防署の協力を得て、防災避難訓練が実施されている。地震や風水害に関しても検討がされている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録簿に食事摂取量や水分補給量は克明に記録されており、その内容は併設老人保健施設の管理栄養士を含め職員で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐メロが適度な音量で流され合わせて歌う人もいて、不快感を感じさせないゆったりとした空間である。強い日差しはカーテンで調整し、台所での調理の音も聞こえている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口にはそれぞれ異なった模様と押し花、表札も分かりやすく表示され、居室内はその人の使い慣れた品々が持ち込まれ入居者の個性に配慮された居室である。中には位牌や仏壇を安置し毎日参拝している人もいる。		

※  は、重点項目。